

第1回都留市小中学校適正規模等審議会

会議議事録

開催・・・令和元年7月25日（木）

場所・・・市役所3階大会議室

都 留 市 教 育 委 員 会

第1回都留市小中学校適正規模等審議会 議事録

令和元年7月25日(木)、市役所3階大会議室において、【第1部】都留市小中学校適正規模等審議会委員委嘱状交付式、並びに、【第2部】第1回都留市小中学校適正規模等審議会を開催した。

【第1部 委嘱状交付式】

1. 開 会

午前10時00分、開会

2. 委嘱状交付式

<出席委員の氏名>

廣 田 健・公立大学法人 都留文科大学 教職支援センター長
教養学部 学校教育学科 教授

鈴木 健 大・公立大学法人 都留文科大学
教養学部 地域社会学科 准教授

藤 江 喜美子・都留市議会 議長

小林 健 太・都留市議会 社会厚生常任委員長

松 嶋 和 男・都留市自治会連合会 監事、(四日市場自治会長)

篠 原 勇・都留市自治会連合会 理事、(早馬町自治会長)

梅 田 茂 男・都留市地域協働のまちづくり推進会連絡会、
(宝地域協働のまちづくり推進会副会長)

宮 澤 宏・都留市地域協働のまちづくり推進会連絡会
(開地地域協働のまちづくり推進会 会長)

中 村 吉 秀・都留青年会議所(JC 都留) 理事長

谷 内 佑 季・子育て支援市民ボランティア
親子のえがお研究クラブ(にこ研) 代表

三 枝 里 実・都留市学童保育連絡協議会指導員会 代表

海 野 剛・都留市小中学校PTA連合会 会長

土 屋 正 美・都留市小中学校PTA連合会 副会長
(東桂中学校PTA会長)

小 泉 浩・都留市保育所連合会（保護者代表）

青藍幼稚園保護者会長

小 林 貴世美・都留市保育所連合会（設置者代表）、

東陽保育園長

赤 澤 敬 子・前都留市公立教育委員会教育委員（保護者代表）

高 部 茂 人・都留市小中学校長会 会長（谷村第一小学校長）

村 松 俊 一・都留市小中学校教頭 会長（禾生第一小学校教頭）

三 浦 淳・都留市教育会長（都留第一中学校教諭）

※当日三浦淳氏欠席（代理；原田裕太教育会事務局長）

<委員以外で出席した職員>

教育長・・・・・・・・・・上 野 清

教育次長兼生涯学習課長・・・・・・・・榎 田 仁

学校教育課長・・・・・・・・・・清 水 敬

学校教育課長補佐・・・・・・・・・・平 井 鉄 二

学校教育課学校教育推進幹・・・・・・・・白 井 明 彦

学校教育課副主幹／学校教育担当リーダー・・小 澤 初 美

3. 教育長あいさつ

4. 閉 会

【第2部 第1回都留市小中学校適正規模等審議会】

1. 開 会

2. 会長・副会長選出（事務局一任の声あり ⇒ 事務局原案提示）

互選の結果・・・・・・・・会長；廣田 健

・・・・・・・・副会長；赤澤敬子（両名全会一致で承認される）

3. 会長就任挨拶

4. 諮 問（上野教育長⇒廣田会長へ「諮問書」一読後諮問）

審議事項(1)市立の小中学校の学校規模及び学校配置等の適正化に関する事項

～将来における適正な学校規模及び学校配置のあり方について～

5. 経過と概要について（含む；資料説明）

事務局より準備会から審議会設置までの経緯について、次の資料とおりの説明
有り。

都留市小中学校適正規模等審議会の設置について

都留市教育委員会 学校教育課

【経緯】

全国的に少子化の進展、人口減少が進行する中で、市町村においては、公立小学校・中学校の適正規模・適正配置が大きな検討課題となっており、文科省では、学校統合の適否又は小規模校を存置(そんち)する場合の留意点等をまとめた「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を平成27年1月に策定し通知した。

- 1) 本市において、標準学級数基準に達している学校は、小学校が2校で、これ以外の9小中学校は満たしていない。
- 2) 総合教育会議における協議では、学校規模の適正化や適正配置の検討に際して、「審議会」を設置し、検討し、協議していくことが確認された。

【 総合教育会議での確認 ⇒ 準備会設置 ⇒ 審議会設置 】

学校規模の適正化や適正配置の具体的な検討を行うにあたり、教育的な観点、地域の様々な事情を総合的に考慮し、児童生徒の保護者の声を重視しつつ、地域住民の十分な理解と協力を得ながら「地域とともにある学校づくり」の視点を踏まえた丁寧な議論を行うために、

【 平成30年度 ⇒ 準備会 】

審議会を設置する前に「学校規模等適正化準備会」を設置して、現状の把握と課題等の情報を共有した。

【 令和元年度より ⇒ 審議会 】

教育委員会の諮問に応じて学校規模の適正化及び適正配置に関する重要な事項について調査及び審議をし、意見の答申を行う。

この後、同課長より、資料1(準備会まとめ)、及び、資料2(アンケート集計)について説明があった。

6. 議長選出

本審議会条例第6条の規定「会長が議長となる。」により、廣田会長が議長となり、議事に入る。

7. 議事

1) 審議会の「道標」とする目指す方向性の共有

(1) 事務局より「都留市の歴史」及び「学校の変遷」についてスライド説明約30分間を上映する。

(2) 意見交換

A) 都留市の歴史に何を感じたか

B) 今の社会に、また、将来にどんな不安や危機を感じるか

C) 将来を担う子どもたちにどんな力を育みたいか

以上3点の視点から、下記の道標を意識した感想や意見をいただいた。

行き詰ったときの「道標」

⇒ 誰のための、何のための、適正化か

各審議員から出た質問や意見、感想をまとめると以下の通りである。

[1th 適正規模等審議会における委員発言要旨]

諮問について

- N氏：諮問中「学校の標準基準」とあるが、国基準はどの程度重視するのか？

Ans. 現在、国基準を尊重しつつ、県規準（はぐくみ）、地域の実情（複複式でも存置している）で運営している。今後、この基準を尊重し、県の25人学級の実施等を注視しながら、都留市としての基準を考えたい。

スライド視聴後（都留の成り立ち、変遷、協働について）

- U氏：隣近所、組など、今と違う地域の結びつき、人と人とのつながり、協働を改めて感じた。
- N氏：ここ70年余りでの、あまりに大きい変化（生活レベル、人口構成等）これから、中/長期を見定めて「時代は変わる」ことを念頭に、社会変化を見据えた議論が必要と強く感じた。
- M氏：統廃合に近いと感じる「附属小」学区にある開地協働の代表でもある立場。地域によっては人がおらず運動会も参加できない状況、小学生も少なくなり、学

校もなくなると「限界集落」が頭をよぎる。ここも考えの視点に入れる必要がある。

- U氏：文大入学と同時に上尾市(人口21万人)から住み着いた。地域に愛着無く育ったが、都留に来て自然と郷土愛/地域愛が生まれた。お互い様の関係は時に煩わしいが必要なものと思う。

少子化は50年前に指摘されており、今の状況は「大人たち」がほっといたツケであり、すぐに解消できるものではない。「最近の子供は…」「最近の若い奴は…」など、世代間で責任のなすりつけはしたくない。

- S氏：資料にある児童生徒数の推移は想像以上の減少スピード。30年40年後には税収も減り、小中学校施設は老朽化している…などの視点も加味する必要がある。

- 議長 H氏：(まとめ)

▶何もないところから、力を合わせて電灯をひいて未来志向で地域を拓いてきた、固定観念にとらわれず、現在の都留につながることに感動した。

▶これらを支えていたものが、皆で考え、力を合わせ、協働で新しいものを作ってきた土壌がある。

▶この審議会は、「統廃合…どうしようトホホ…」的な悲しいものではなく、5年、10年、40年、50年先、どんな教育首都を作るのか、何を子どもたちに託すのか、どんな人材を育てるのか等々、未来志向で考える審議会を皆で作りたい。

▶未来を拓く審議会にしたい。

第1回審議会の中で、今後目指す方向性のイメージとして下記が確認された。

⇒ ① 誰のための、 ② 何のための、 ③ 適正化か、 を具体的に示すと、

行き詰ったときの道標 (みちしるべ)

⇒ ① 子どもたち一人ひとりにとっての

② より良い教育環境の整備を図るための

③ 適正化 イ) 適正化の根拠となる、判断の基準(規準)を示す。

ロ) 適正化を機会に、教育の質の充実向上を図る。

2) 今後のスケジュールについて

事務局より、次頁の表の通り今後のスケジュールが説明され、了承された。その際に、このスケジュールは、あくまでも当面の目途として設定されているものであり、審議会の進み具合で任期2年間中は柔軟に変更が可能であることも確認された。

(年度内は、5回程度の開催を想定)

回数	開催予定日 曜日	時間	協議検討内容
1	7月25日 (木)	10:00 ～	<p><u>ねらい</u>審議会が目指す方向性≡道標と進め方を共有</p> <p>① 委嘱状交付 ② 役員選出(会長1名、副会長1名)、 ③ 教育長より正式に諮問 ④ 昨年度準備会まとめの概要と経過(含む資料説明) ⑤ 意見交換；「都留市の歴史+学校の変遷」視聴して ⑥ 今後のスケジュール 等 ⑦ 「都留市の歴史・学校の変遷」を視聴し、審議会としての「道標」を共有</p>
2	8月23日 (金)	15:00 ～	<p><u>ねらい</u>子どもたちの望ましい成長を促す、都留市にと <u>っての適正な学校規模を、具体的な根拠と標準学級数で示す。</u>○現状の児童・生徒数説明、 ○予測児童・生徒数説明、 ○学校規模に関する市民アンケート集計結果 ○小規模校／大規模校のメリット・デメリット、等</p>

3	10月3日 (木)	10:00 ～	<u>ねらい</u> 子どもたちの望ましい成長を促す、都留市にとっての適正な学校配置を、具体的な根拠と標準（通学手段+所要時間）で示す。 ○現状及び予測の説明、○教育首都を目指す新たな配置の選択肢はないのか、○アンケート集計結果、 ○小中学校と地域との関わりの現状と課題、 ○施設設備面のメリット・デメリット、等
4	11月21日 (木)	10:00 ～	<u>ねらい</u> 幾つかの適正化のパターンや選択肢を比較検討し、答申の素案を作成する。
5	1月16日 (木)	10:00 ～	<u>ねらい</u> 答申(案)を再検討し、最終答申を作成する。 ○答申に向けた方向性の調整・承認と答申(案)の検討
?	以後未知	?	<u>ねらい</u> 審議会として協議検討した結果を答申として市長に報告する。 審議会として正式に教育長に報告、今後の方向性

- ただし、具体的に現状と意見等を聴取する機会をとる可能性があり、その場合、開催回数は多くなることが想定される。

3) その他（課長から3点、担当リーダーより1点、事務連絡有り）

学校教育課長より

- ① 次回開催通知の扱い
- ② 次回開催日等について
- ③ 別冊資料の扱いについて（よく目を通す、毎回忘れずに持参）

担当リーダーより

- ① 報償費の振込について

8. 議長解任（議長より挨拶）

9. 閉会（進行係より）

午前11:40頃閉会

以上